浜松南高新聞
発行所
県立浜松南高校新聞部
静岡県浜松市米津町
印刷
浜松共同印刷株式会社

校訓　最善を尽くそう

あなた自身はどうですか？

遅刻についてどう考えるべきか？

＝登校調査アンケート結果＝

我々の生活の周囲には多くの諸問題があります。交通事情の問題、遅刻の問題、自転車置場の問題……。これらも我々の直面しているものの一つです。今年一月、新聞では、登校調査のアンケートを実施しました。そしてこのアンケートの結果として、様々な生徒の遅刻に対する考え方や取り組み方などを知ることができました。今回、特集を組むにあたって、全ての生徒の皆さんを載せることはできませんでしたが、我々の直面している諸問題の一つでも解決できるようにレポートします。

もう五分早ければ……

朝夕の登下校、毎日同じ道を走ってくる浜南生。北風に進路を邪魔され、寒さで指がかじかみ、頬を赤くほてらせながら、自転車で通学する生徒は全校の九十％以上います。

我々の通学路をあなた方はどう評価しますか。南高周辺で多くの人が利用する訓練短大前の小道などは、毎朝混雑してたまりませんが、田尻橋付近の交差点なども危険でたまりません。

では、南高の自転車置場は……？。現在収納しきれず、屋根の外に置かれている自転車が数多く見うけられます。

生徒が学校に希望・要求するものの一つとして、この自転車置場の改善があげられます。来年度からはプール東側に自転車置場を増設することになりましたが、収容台数が百十七台（学校発表）と小規模であり、校舎への距離なども問題となるでしょう。また「浜松駅から自転車を利用する生徒はバスに切り換えるべきだ。」「学校から三キロ以内の生徒には自転車通学の許可を与えない。」という考え方もあるようです。このようなことに対して、もっと合理的で納得のいく打開策が必要となってくるでしょう。

先日、訓練短大東側の細道に隣接する住民の方々に「浜南生に対する苦」ということでアンケートに答えて頂きました。（尚、この細道は一昨年より登校時の通行が禁止されている。）

まず「現在困っている点は……？」ということについては、下校時に三・四列ぐらいで並進していたり、暗くなってから無灯火で走っていることだそうです。そして、これらの生徒によって「子供が危険でたまらない。」という方もいらっしゃいました。

また「一昨年以前に困った点は……？」ということについては、自転車の飛び出しや並進、無灯火、そして自動車などが出られなかったことだそうです。

その他に「現在の交通マナーについてお気付きの点は……？」ということについては、前に指摘されたことに加えて「二人乗り」という答えがかえってきました。

では、我々の通学態度はいったいどのように改めたらよいのでしょうか。

まず、先生方の考えを借りるなら「五分ないし十分前には登校するように。」ということです。このことは余裕をもって登校することによって交通事故を防止するという点で生徒にとって大切な心構えでしょう。

また、県内中部地方のある高校では学年によって五分ずつ登校時間をずらしています。このことは通学路の渋滞緩和に効果的でしょう。

その他には、朝の身仕度を早くすることがあげられます。一概にはいえませんが、七時半までに起床する人が全体の八十九％なのに対し、八時までに家を出発する人が七十五％しかいないことから、生徒の身仕度に意外と時間がかかっていることがわかります。

さて、南高の遅刻の現状はどうでしょうか。

アンケート結果、四月から十二月までの間に遅刻をしなかった人は全体の五十％でしたが、十回以上遅刻をした人も六％いました。また、HR別の遅刻数の総計をみると、各HRによってかなりバラツキがありました。これらのことから遅刻の多い原因は、遅刻常習者がいるかいないかということと、各HRによる遅刻防止の取り組みや考え方の違いによることが考えられます。

では、いったい生徒は遅刻に対してどのように考えているのでしょうか。

①気持ちよく一日がすごせない。②集団生活だからよくない。③気のゆるみからくるのでよくない。④集団生活だから仕方ない。⑤個人の努力につきる。⑥廊下に座らせられたり清掃をさせられたりするから仕方ない。⑦特別な理由以外厳しくすべき。――これらはアンケートの結果のほんの一部です。

①から③は「遅刻はよくない」の一言につきる意見です。ちなみに、本校総務課が実施したアンケート結果でも、ほとんどの生徒が遅刻をすることはいけないことだと認識していました。

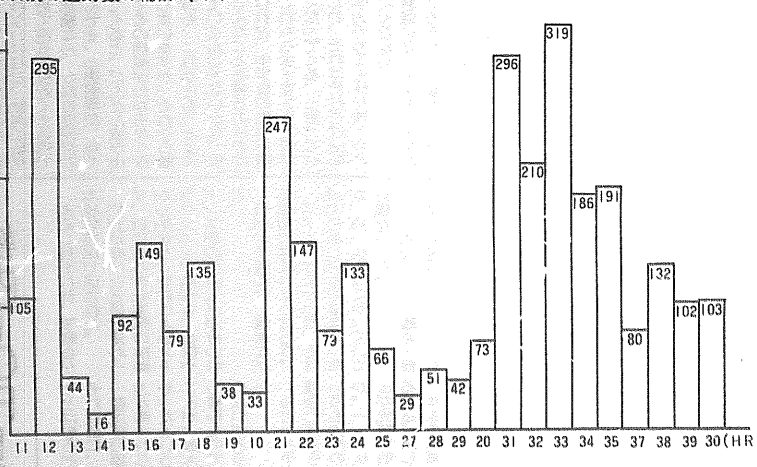
④・⑤は「生徒ひとりひとりの良識や判断にまかせる。」という意見です。また、⑥の「廊下に座らせられたり清掃をさせられたりするから仕方ない。」という意見は、遅刻常習者の生徒に遅刻をさせないようにしてけじめをつけさせるには効果的かもしれません。ただ、いかにも後味の悪いものです。先生はもちろん、生徒も、学校をこのような場所にさせないように努力する必要がありそうです。そして、最後に書かれていたのが、「特別な理由以外厳しくすべき。」という意見です。ここで「特別な理由」というのは、電車・バスの遅れや自転車のパンク等でしょう。学校では、電車の遅れについては公遅刻を認めていますが、雨天のバスの遅れや自転車のパンクまでは対応しきれないとのことでした。しかし、この二つはいくら早く家を出たとしても解決するには限度があるので、証明できる良い方法があれば簡処してもらいたいものです。

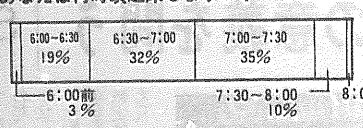
今まで、自転車通学から遅刻についてまで、アンケート結果などを利用して論じてきました。

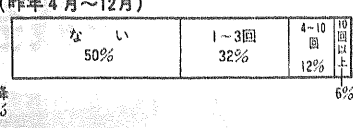
遅刻をしやすい人とは、結局時間をギリギリに使っている人ではないかと思います。これは時間の使い方が下手なことに直結します。

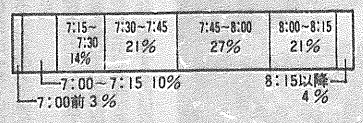
また、自分の好きなことならば人間は誰でも積極的に取り組むものです。だから、部活や生徒会活動、その他で自分の目標を決めて、やりがいや活路を見い出し、少しでも早く登校したいという気持ちを起こすことが最良の方法でしょう。

話しは変わりますが、私達が中年になるころには、労働時間の短縮と、西欧なみの余暇時代を迎えることと思います。その時、時間に振り回されることなく、人生という時間をたっぷりと使えるような人間でありたいものです。その日のためにも、今から遅刻などしないでもすむような過ごし方ができるようになりたいものです。









※①は、出欠席調査の抜粋
②～④は、今年一月におこなった新聞部のアンケート結果、
（1312人中、935人、全体の71%）

論説

君はイノベーションについていけるか

最近、真空管などという言葉が使われることが大変少なくなった。二十数年程前はテレビに多くの真空管が使用され、かつ高価なものであったのに……。しかも、我々の世代では真空管そのものを見たことのない者がいるほどである。

十年程前であったろうか。私の家庭でステレオを買ったことがある。当時、その取扱説明書にはトランジスタの数が表示されていた。現在、トランジスタの数が表示されている家庭電化製品の取扱説明書がほとんどないことを考えれば、トランジスタというものがどれほど重要でかつ高価なものであったかがうかがえる。

本校にはパーソナルコンピューターをはじめ、数々のICやLSIといった集積回路を取り入れた多くの電化製品がある。小型軽量化が比較的得意とされている日本――たった二十年ほどの間に、真空管からトランジスタ、はたまたIC・LSIに至るまで一般家庭に普及させるとは見事としか言いようがない。しかも、真空管を使用している電化製品などほとんどなく、トランジスタの使用もだいぶ減っている現在、IC・LSIなどの需要が増加している。

イノベーション――聞いたことがあるはずだ。現代社会でいう技術革新の意である。

戦後の日本は従来生産方式の開発に力を注ぎ、先進工業国として今に至っている。特に、今まで日本がおこなってきた技術革新は「プロセス・イノベーション」といわれている。そして、このような技術革新を押し進めた結果、応用技術分野で先端に立つことができた。しかし、基礎科学分野の研究が乏しいために、革新的な技術開発が望みにくい状態になってしまった。

アメリカ・西ヨーロッパなどは、日本と比較してかなり基礎科学分野からの技術開発に力を注いできた。これを「プロダクト・イノベーション」という。日本はこれらの国々のプロダクト・イノベーションを最大限に利用して、プロセス・イノベーションをいち早く実行したのだ。

我々は今、プロセス・イノベーションのツケに苦しんでいる。

半導体ダンピング事件、東芝機械ココム違反事件……。これらは「プロセス・イノベーション」を引き金として経済報復が日本に対しておこなわれていることの一つである。

前にIC・LSIの話をしたが、需要が増加していると述べた。だが、現状は製品の輸出過剰で、価格も値崩れを起こしている。このようなことが輸出規制を生み、違反事件を増加させている。特に、今用した時計付きゲームやファミリーコンピュータなどといったTVゲームなどが数多く陳列されている。いずれも、低価格でかつ軽量化を実現するためにICやLSIなどを使用している。

こんなことから、私は十年程前に、自分で直した玩具との格差を強く感じている。

一九八〇年代、これは技術革新の急加速により、我々使う側である人間が技術革新についていけないという、人間にとって致命的なひずみを生じさせている。これから先、九十年代、二十一世紀へとこの傾向は更に進むだろう。

その他には、朝の身仕度を早くすることがあげられます。一概にはいえませんが、七時半までに起床する人が全体の八十九％なのに対し、八時までに家を出発する人が七十五％しかいないことから、生徒の身仕度に意外と時間がかかっていることがわかります。

さて、南高の遅刻の現状はどうでしょうか。

アンケート結果、四月から十二月までの間に遅刻をしなかった人は全体の五十％でしたが、十回以上遅刻をした人も六％いました。また、HR別の遅刻数の総計をみると、各HRによってかなりバラツキがありました。これらのことから遅刻の多い原因は、遅刻常習者がいるかいないかということと、各HRによる遅刻防止の取り組みや考え方の違いによることが考えられます。

では、いったい生徒は遅刻に対してどのように考えているのでしょうか。

①気持ちよく一日がすごせない。②集団生活だからよくない。③気のゆるみからくるのでよくない。④集団生活だから仕方ない。⑤個人の努力につきる。⑥廊下に座らせられたり清掃をさせられたりするから仕方ない。⑦特別な理由以外厳しくすべき。――これらはアンケートの結果のほんの一部です。

①から③は「遅刻はよくない」の一言につきる意見です。ちなみに、本校総務課が実施したアンケート結果でも、ほとんどの生徒が遅刻をすることはいけないことだと認識していました。

④・⑤は「生徒ひとりひとりの良識や判断にまかせる。」という意見です。また、⑥の「廊下に座らせられたり清掃をさせられたりするから仕方ない。」という意見は、遅刻常習者の生徒に遅刻をさせないようにしてけじめをつけさせるには効果的かもしれません。ただ、いかにも後味の悪いものです。先生はもちろん、生徒も、学校をこのような場所にさせないように努力する必要がありそうです。そして、最後に書かれていたのが、「特別な理由以外厳しくすべき。」という意見です。ここで「特別な理由」というのは、電車・バスの遅れや自転車のパンク等でしょう。学校では、電車の遅れについては公遅刻を認めていますが、雨天のバスの遅れや自転車のパンクまでは対応しきれないとのことでした。しかし、この二つはいくら早く家を出たとしても解決するには限度があるので、証明できる良い方法があれば簡処してもらいたいものです。

今まで、自転車通学から遅刻についてまで、アンケート結果などを利用して論じてきました。

遅刻をしやすい人とは、結局時間をギリギリに使っている人ではないかと思います。これは時間の使い方が下手なことに直結します。

また、自分の好きなことならば人間は誰でも積極的に取り組むものです。だから、部活や生徒会活動、その他で自分の目標を決めて、やりがいや活路を見い出し、少しでも早く登校したいという気持ちを起こすことが最良の方法でしょう。

話しは変わりますが、私達が中年になるころには、労働時間の短縮と、西欧なみの余暇時代を迎えることと思います。その時、時間に振り回されることなく、人生という時間をたっぷりと使えるような人間でありたいものです。その日のためにも、今から遅刻などしないでもすむような過ごし方ができるようになりたいものです。

人を語る

一冊の地図

菅沼宏光先生

今回は社会科担当の菅沼宏充先生にご登場頂いた。

先生は、大変な旅行好きで現在既に二十数ケ国に行っておられます。そして、南高では、地理と世界史という、全世界を扱う科目を教えておられます。さて、先生をそこまでにしたものは一体何だったのでしょうか。

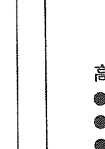
先生の、地理との最初の出会いは小学校四年の時、士蔵の中で見付けた地図でした。士蔵の中には、先生の親や祖父の使った教科書がおいてありました。そして、先生はその地図に興味を持って、それを自分の机に並べておきました。そして、さらに地図に興味を持った先生は、その後士蔵へ行くたびに地理に関するものを持っていっては読みました。

先生が読んでいたものは、父親が学生のころ使ったものや、教師であった祖父が使ったものなので、かなり古いものでした。父親は、そんな先生を見て、最新版の地理の資料を買い与えました。それは、後にも先にも一度きりのプレゼントだったそうです。そしてその後も、それらの資料を見たり、自分で地図をかいてはいろいろと書き込んだりしました。

先生が高校に入学したとき、初めて「地理」という科目に出会いました。「大学受験の科目にこんな簡単なものがあるのか」と驚いたそうです。また、外国旅行へのあこがれも強くなり、それに必要である世界史や英語にかく地理はほとんどが満点をもやり始めました。そして、とにかく地理をやりたいという思いは消えず、ついに一年後、父親に内緒で、祖母から金を借りて別の大学を受け直して、地理をやりました。そしてその後、少年時代には夢でしかなかった海外旅行が簡単にできるようになり、それから外国へ行くようになりました。

「今思うと、あの時の地図が僕の一生を決めたんじゃないかな」と先生はなつかしそうに語っておられました。そして、自分をここまでにしたのは、「やはり遠くへ行きたい」という気持ちだろう。」とおっしゃいました。

先生の未知への尽きせぬ好奇心に、少年の魂をかいま見る思いがしました。



遠州灘

現代の人間は、一般的に「強さ」が少なくなり、代わりに「優しさ」が増しているといわれている。しかし、果たして本当にそうだろうか。あるいは、強さと優しさとは反比例するものなのだろうか。

「強い」ということを「力があること」とすれば、確かにそのとおりである。事実、日本は戦前ほど「力がものを言う」、あるいは「幹部が部下を統率する」ことはなくなった。

だが、本当の「人間としての強さ」とは、果たして力の関係だけだろうか。例えば、自白によると二十三人もの人を殺した勝田清孝は、少なくとも力の関係では、恐ろしく強いと言えるだろう。しかし、人間として強いと言えるわけではない。

また、強さと優しさとが反比例するのなら、弱ければ優しいということになる。今「いじめ」の問題が深刻になっている。一般に、現在の「いじめ」は、弱い者が集団である特定の子に乱暴するものである。ではその弱い者一人一人は、果たして「優しい」といえるのだろうか。

「優しさ」について、ある歌の歌詞では「裏切ることを知らないあたたかい人の誇り」と言っている。裏切ることを知らない、つまり、どんな時でも人を裏切らないことは、人間として本当に強い者だけが出来ることである。このように考えると、優しさは、人間としての本当の強さに比例すると言える。今、このような人間性を持った人は果たしてどれだけいるであろう。理想通りにはなかなかいかなくても、少しでも理想に近づきたいものである。

購買委員会
営業時間
12：50～13：10

正しいメガネでしあわせを…
メガネの吉田屋
広小路店 浜松駅前広小路通り ☎53-1188(代)
旭町店 浜松・旭町（浜松郵便局前） ☎54-0881(代)
高台店 浜松・幸一丁目（ユニー前） ☎73-8118

新聞部
部員募集中
活動日　火・木・金
活動時間　PM3：00～4：00　3：40
次号は7月発行（83号）

本・レコード・ビデオレンタルの店
BUN GAKU KAN
イケヤ文楽館
BOOK&RECORD
高台店OPEN!!
駐車場30台収容
夜11時まで営業
（年中無休）
イケヤ文楽館高台店
本店　浜松市田町有楽街　〈0534〉52－5151
鍛冶町店／文楽館高林店／文楽館高台店
菅田店／aiai菅田店／掛川店／袋井店／浜北店

谷島屋書店
YAJIMAYA
本店 〒430 浜松市連尺町309-1 ☎〈0534〉53－9121(代)
遠鉄名店ビル店●田町
松菱店●松菱デパート8階
リブレモール●鍛冶町モール街
浜松駅店●コスタ内
なかざわ店●中沢町
駅南店●領家町
毎日ボウル店●有玉南町
浜団地支店●遠州浜2丁目
浜松医大売店●半田町
聖隷病院売店●住吉●三方原

DK値58.8。ゆとりの高酸素透過性ハードコンタクト。
瞳はゆとりのファーストクラス。
新発売 パソネックス
HOYA HARD/58
高酸素透過係数・DK値58.8のレンズ…コンタクトライフにゆとりが誕生。
●装用時間にゆとり。高酸素透過性のため、早く慣れ、長時間の装用が可能。
●装用感にゆとり。優れたデザインで装用感が向上し、涙液交換もスムーズ。
●ゆとりの水濡れ性。水濡れ性がよく、涙とよくなじんで、さわやかなフィット感。
●清潔さに安心のゆとり。レンズは新しいケアシステムで、いつまでもクリーン。
●ゆとりのトータルバランス。瞳の快適さを守ります。
コンタクトレンズは、眼科医の指示を守り正しくご使用ください。
浜松駅前
プレスタワービル8F
コンタクトのハッピィ浜松
※学生割引でお求めいただけます！
〒430 浜松市旭町11-1（プレスタワービル8F）
☎0534(55)1383
■営業時間／AM10:30～PM6:30
■休日／水曜日

高めよう南高。歌おう母校の歌を

十年たっても二十年たっても南高の歌をうたおう

―校長インタビュー―

本校に赴任されて三年、名実ともに南高の「顔」として、生徒達にも人気の高い川内利一校長先生だが、残念ながら本年度で定年を迎えられ、三十四年間の教員生活にピリオドを打たれることになった。

先生にとって、この三年間はどのようなものだったのか。お話しを伺ってみた。

今期で定年退職される川内校長先生

―校長先生は、あと二ケ月ほどで南高を去られるわけですが、今の心境を一言お願いします。

「教育をやって、一番最後の学校をこんないい学校で過ごすことが出来て、僕は幸せ者だなと思います。」

―赴任した当時の南高はどんな感じの学校だったのでしょうか。また校長先生はそれをどのように変えていきたいと思われましたか。

「これは他の先生方からもよく聞かれることなのですが、好いカー勉強でも部活動でも―をせっかく持っているのに、どうも元気がない。積極性に欠ける。持っている力をうまく発揮できていないところがある。もっとよく言う『南高に歌声を!』ということ。それらによって僕は元気を出してほしい。そうすればもっと伸びるんじゃないか、とそう思いました。それも南高にいる間だけでなく、それからずっと後まで。南高にいた時だけ元気いっぱいで、いざ進学、就職したらとたんにしぼんでしまうのではしかたないでしょう。具体的には、部活動、特に運動部を盛んにする。それから僕がラスみんなで南高の校歌や応援歌を歌う。そんな気風をつくり出したいと思ったわけです。」

―とすると野球部を新設したのも、そういった含みがあったからなんでしょうか。

「そうですね、もともと要望も強かったし必要だとも思っていたからでもあるのですが、それ以上に野球の応援をみんなが一団となってやることが、生徒達に元気を出させるきっかけとなってくれるのではないか、と思ったからです。それにそういう事があれば、南高を卒業した後も『よし、じゃあ球場へ行って南高の応援をしてこようか』という気持ちにもなる。そういうのが母校愛だと思うんですよ。母校愛を持って卒業していく生徒、いつも言っていることなんだけど、南高にいてよかった、南高を卒業してよかった、と思って卒業していく。そんな生徒を送り出したい。だから行事なども出来るだけ心に残るものにしたかった。野球部のことも結局それが一番のもとになっているんじゃないかな。君達も卒業して何年かたてば、同級会をするとか、まず県で優勝しないじゃないかとか、もしもいったじゃないかとか言われるかもしれないけれど、県内に私立も含めて百五十校近くある内で今の成績なら、かなり立派だと思うんです。(運動部が)強くなってくると、だんだん欲が出てきてその価値がわからなくなってしまいますが。それから勉強の方も、これからもっとよくなっていくんじゃないかな。校長がこんなことを言うのはおかしいけれど、中学校の先生も南高はこれからますます入るのが難しくなってくる、と言っていますしね。それはそれだけ南高に、学力のある生徒が増えるということだから。」

―教師になってから、先生がやってみたかった事で、やり残してしまって心残りな点などはありませんか。

「南高はおまえ僕のやりたかったことを全て受け入れてくれましたから一特にないですね。」

―教師になってよかった点、うれしかった事はなんでしょう。

「やはり生徒と、卒業後も人間的な付き合いが出来た点かな。具体的に言うと、南高へ来て球場でいっしょに応援歌を歌ってくれた時には本当にうれしかった。僕が教師になってからのベスト10に入りますよ。僕はだいたい手供っぽい。若干自慢頭になりながらもいまだに中学生的、高校生的な所がある。生徒のみんなも思いあたることがあるんじゃないかな。いつかの歌の練習の時にも、段の上に飛び上って『声が小さいぞ!』なんて怒鳴っちゃったし。ああいうのなんかほんとに上級生がド級生を叱るような気分で言ってるんですけどね。」

―そういえば、校長先生は自分をいつも『僕』と言っていますね。

「なかなか言いにくくて。それになんか偉そうでしょう。やはり生徒から見てもこの方がいいんじゃないかな。僕はあまり生徒との間に距離をとりたくないんですよ。他の校長さんも個人面談とかしてるかもしれないけど、僕も毎年三年生一人ひとりと十分位、校長室で話をする。生徒も結構気軽に話してくれますよ。」

―南高生に何か一言

「前にも言ったけれど、卒業してからもいつまでも南高の歌を歌っていってほしい。そして南高の行事があったらそれに出て、試合があったらそれを観に来て応援してほしい。僕もね、野球の試合だなんか、またどっと応援しに行こと思う。他の部活なんも観に行きたいんだけど、なかなか新聞に出ないんだもの。野球なら何時何分何とか球場って TVや新聞で細かく知ることができるんだけどね。また、僕などこかの球場で会いましょう。そしていっしょに応援歌を歌おうじゃないですか。これが、僕の最後の願いです。」

―どこでも月並みなんですが尊敬する人は

「まったく地味で、名も無く貧しく、それでも自分の事だけでなく人の事も考えて動く、そんな人ですね。固有名詞でと言われるとちょっと困るなぁ。」

―先生は国語が専門だそうですが、好きな本、作家等ありましたら

「一冊の本と言われるとなかなか選択に困るんですが、好きな作家は、昔は山本周五郎、今は司馬遼太郎ですね。それから自分でも、小説と主ではいかないけど、暇になったら何か書いてみようと思っています。若い時にも少し小説を書いてみたりして、雑誌の懸賞に応募してみたり―これが結構いいところまでいったんですけどね!」

―退職後の御予定は

「一応どこかの私立高校に勤めることになると思うんですけどね。今はまだ未定ということかな。」

―今後ともお元気で過ごされることをお祈りしてインタビューを終えたいと思います。

わかりやすい生徒会を目指して

―新執行委員より―

〈生徒会長〉鈴木　智彦(24)
いつの時代でも生徒が望むのは"楽しい学校生活"であり、それを実現させたのが諸々の生徒会活動である。各種の行事はその一部であり、委員会その他の活動もまたしかり。つまり、現在行われている生徒会活動は全て生徒が創り出したものであり、生徒が実行していくものである。しかし、現状では他人まかせになっている。だから、この辺で目を覚ましてみないか。南高は我々のものなのだ。
執行部は「わかりやすい生徒会活動」の方針の下、日々努力している。しかし、それは生徒の協力無しでは到底成り得ない。とりあえず、こんなことを皆さんに訴えて就任の挨拶としたい。

〈副会長〉徳武　茂隆(23)
役員二十一人全員で一致団結し「わかりやすい生徒会活動」をモットーに頑張っていきたいと思います。皆さんも御協力お願いします。

〈副会長〉喜林　佳世(28)
今期にはいろいろな行事があり、しかも大きなものばかりです。みんなが協力しあって、楽しく良い行事ができるように頑張りたいと思います。

〈書記長〉古久根京子(28)
今期、何もわからないまま、"書記長"になってしまった私ですが、皆様に迷惑をかけないよう、自分なりに一生懸命がんばっていきたいと思います。

〈書　記〉東山　裕美(11)
二期目です。今期の抱負としては「印刷機と仲良くする。」これしかありません。とにかく頑張っていきます。

〈書　記〉鈴木　忠喜(15)
初めて執行部に入りましたが、とにかく今期だけでも頑張っていくつもりです。また、波濤祭が成功するように努力したいと思います。

〈会計長〉川島多香子(27)
目立つ仕事ではありませんが大切な仕事です。それに、前期は特に大変です。一つ一つを期限内にしっかりとこなせるようにがんばりたいと思います。

〈会　計〉中村　圭(15)
南高初!の男子会計になってしまいました。仕事はよくわかりませんが、なったからには精一杯がんばりたいです。

〈会　計〉鈴木　ひとみ(10)
早く仕事に慣れるよう、一生懸命がんばっていきたいと思いますので、よろしくお願いします。

〈保　健〉栗田　充子(20)
トイレの清掃点検と出欠調査を中心に、活動が活発におこなえるよう、各HR委員の人と協力して頑張っていきたいと思います。

〈生　活〉石塚　智弘(23)
今学期の残りの期間で活動目標をふりかえり、新学期に向けて前向きに活動していきたいと思います。

〈文　化〉鈴木　秀仁(23)
前期には波濤祭があります。そのために、早めに計画・実行ができるようにしたいと思います。また「波濤祭は生徒全員でつくるもの」ということをお忘れなく!

〈体　育〉内山　慎二(23)
三月十四日から十六日にかけての運動大会に向け、現在企画検討中です。今回はいつもと少し違った感じのものにして、皆さんに楽しんでもらおうと思っているので、どうか御協力を!

〈社会参加〉江間　千晴(28)
全校生徒の社会参加への積極的な参加と波濤祭でのチャリティーバザーの成功を目標に一生懸命がんばっていきたいと思いますので、御協力をお願いします。

〈交　通〉栗田　早苗(20)
今期は交通指導を中心に、各HR委員の人と協力して、今までの問題点を改善していきたいと思います。また、自転車の並べ方にも力を入れていきたいと思います。

〈環境整備〉牧野　圭志(21)
環境整備という仕事はあまり目立ちませんが、なくてはならない仕事です。皆さん、地味でいやな仕事ですが、協力をお願いします。

〈広　報〉石川　貴充(24)
波濤の製作も終わり、今期は掲示活動に力を入れて一つわかりやすい生徒会を創るために広報活動で応援していきたいと思います。

〈応　援〉中村　和明(24)
四月まで月二回の練習をおこない、五月から新しい計画を立てて、壮行会や夏の野球応援に向けて練習をおこなわれていきます。また、新しい応援パターンもつくっていきたいと思います。

〈図　書〉藤井　寛人(23)
カセットブックの貸し出しも始まり、利用者も増えてきている図書室が、四月から装いも新たにバーコードシステムを導入。さらなる御利用をお願い致します。

新役員の顔ぶれ（中庭にて）

〈園　芸〉斉藤かおり(23)
現在、あまり仕事のない委員会ですが、これからは花壇の整備などが始まります。各HR委員の人と協力して頑張っていきたいと思います。

〈購　買〉寺田浩太郎(21)
毎日の活動はスムーズに行われているので、今後もこの状態を持続し、六月の波濤祭は必ず成功させたいと思います。

◇　◇　◇

任期六月までのこの執行部。果たして波濤祭を成功させることができるのか。「わかりやすい生徒会」を目指して頑張ってもらいたいものである。

教師になりたての頃の先生

校内TOPICS

予餞会の意義を問う

去る二月十八日、予餞会が本校体育館で催された。

内容は昨年とさほど変わらず、例年通り管弦楽部の演奏から始まり、有志によるアトラクション、抽選会、音研やダンス部の発表などが行われた。

今回の予餞会は、残念ながら成功とは呼べないだろう。ステージはよかった。それほど目新しいものはなかったが、皆一生懸命にやっていて好感が持てた。

ところが、それを観る一般生徒の態度はどうだっただろうか。まず、移動からして遅かった。座に着いてからの私語も多かったし、とにかく「よい観客」でなかった事は確かだろう。

会長も最後に「この会は失敗だった」と言っていた。生徒会にも多少の不手際はあったとは思うが、それ以前に、一般生徒の協力が得られなかったということが、最大の要因なのではないだろうか。

もともと予餞会とはどういうものなのか。一・二年生が先輩を明るく送り出し三年生に南高で最後にもう一つ、楽しい思い出を作っていってもらおう、というのがその意義なのではなかったのか。予餞会に本当に必要なのは、派手なステージじゃなければ、時間でもない。

下級生に上級生を送る心があって、それが伝わればそれでいいのだ、ということを改めて気付かせてくれた。

一応進学校と名のつく学校で現在も予餞会を続けている所は数少ない。そんな中で南高があえて、予餞会に固執するのはなぜなのか。「南高に来てよかった。」と言って卒業していく生徒が一人でも増えてくれることを願っての事だろう。

生徒会に任せきりにするだけでなく、生徒全員に自ら積極的に参加する姿勢が必要なのではないだろうか。

進行の遅れが目立った予餞会（体育館にて）

寒明けの放課後に

―我が愛する南高の生徒諸君に―

川内利一

寒明けの寒い放課後だった
指導の時間に事務室の中村さんが
羊切干二枚小皿に載せて校長室に持ってきた
これは近ごろ珍らしい
校内でいいにおいをさせるとまずいかな
でも我が幼年時代からの習慣で
それをストーブの上で焼いていた
剣道部の唐木君がやって来た
唐木君これはうまいぞ食べる
紅顔の高校二年生は熱つつっとやっていたが
唐木君ぼくは子供の時羊切干沢山作ったんだぞ
朝早く起きて羊の皮むいて
ピアノ線張ったわくに押しつけて切ったんだぞ
二人でふうふう吹きながらその羊切干を食べた
ところで唐木君きょうはなんなんだ
先生この三月で学校やめるってほんとですか
だれから聞いたか知らないがまずはめでたく定年だ
それでは南高生に遺す言葉というか詩というか
学校新聞に書いてくれませんか
おいおい唐木君そんなにぼくを甘かすなよ
君らに言いたいことはみんな言ってるし
詩なんてすぐには出てこんよ
でも先生短かくっていいんです
じゃあ唐木君きみと羊切干食べたことでも書こうか
それが君らへの「さようなら」のエッセンスかも
しれないぞ
ひどいなあ先生ぼくのことを書くなんて

（昭六三・二・一九）

編集後記

二月は行く、二月は逃げる、三月は去る。と以前校長先生がおっしゃったことを思い出す今日此頃。三年生の卒業、一・二年生の進級、そして新一年生の入学といった年に一度の別れと出会いの時期が到来しました。と言っても、冬将軍はまだ撤退してはくれず、早く桜やうぐいすの鳴く声が訪ねてきてほしいものです。

「南高にとっての昭和六十二年度とは……。」と思うと、何か台風・大雨によって川が反乱し、そのあとに肥えた土壌が残ったように、大行事や大変革が次々と行われたように思われます。

創立二十五周年記念式典、応援委員会の発足、第一回波濤祭の開祭（本当は開催と言うのだが）野球部の発足と県大会初出場、生徒総会の開催……。こんなに数多くの新風を吹き入れ、成功させた生徒一人ひとりの力の偉大さと努力に歓呼を覚えずにはいられない一年でした。

さて、今号の南高新聞では、一・二学期と遡い、生徒会活動や学校行事などの記事が少なく独自の特集を組むことができました。一面は登校調査のアンケート結果、二面は川口利一校長先生の特集となりました。特に校長先生は今年度をもって退職されることになり、あの「僕は……。」と若々しくおっしゃる声が聞けなくなるのが残念です。

新しい年度を迎えるにあたって、未定ではありますが、先生方の人事・移動や退職があります。（「三月は去る。」の言葉にあてはまるように……。）しかし、三年生や移動なさる先生方に贈りたいと思います。「四月は出会い。」と。

嘆い話しになってしまいましたが、いつかどこかでまた会いましょう。

河合塾
'88春期講習会
浜松会場
3月25日開講
《対象》
新高1.2.3卒生
●基礎レベル講座
●応用レベル講座
申込受付中
ガンガリバーになろう!!
88年度生同時受付中
※詳細は、下記までお問い合わせください。
浜松事務所　浜松市田町324の3 住友生命浜松田町ビル3階
TEL(0534)53-5581(代)

スーパーグリーン
FRESH No.1
いぐち
県立浜松南高校前
浜松市法枝町616
TEL 41-0050

Bar Code 導入!
図書委員会
時はNEW MEDIA
情報Station
浜南Libraryにようこそ

贈りものに
全国共通図書券
教科書・新刊書籍・雑誌
参考書・各専門図書・地図
文泉堂書店
〒430 浜松市連尺町314-1　TEL54-6358代表